

精神科医の思うこと②4

美容整形

松村 奈奈子

まだオミクロンが来る前の頃、法事で弟家族との集まりがありました。久しぶりに親族と話すのは面白いもんです。そんな会のあと、大学生の姪っ子から「美容整形したい」「いい先生紹介して」と言われました。実は1年ほど前に義妹から「美容整形したいと言いついて」「言いつ出したらきかなくて」と軽く相談を受けていたので、「いやー、とうとうマジでするんかぁ」とおもわず言つてしまいました。「未成年の美容整形」、実は精神科医としても診察で何回か相談を受けたこともあり、思う事もあるので今回のテーマは美容整形。

私、小さい頃から母親に「あんたはキレイじゃないので、愛嬌よくしとかんとあかんで」「器量が悪いし、勉強がんばらんといいところ無いで」とよく言われてきました。いやー、今考えると結構ヒドイ発言ですが、自分でも美人じゃないのはヨクヨクわかつていました。そんな母親の助言(?)もあつてか、愛嬌はまあまあだし、勉強もちょつぱり頑張つたとは思つています。こんな腫れぼつたい一重瞼で鼻も低く“美人じゃない”私ですが、10代の頃に美容整形したいと思つた事は一度もありません。友達とワイワイ楽しく遊んでいたし、そこそこ満足な生活でした。この顔にあつた仕事を探し、この顔を好いてくれる人と過ごせばいいと思つてました。もちろん、キレイな女子がチャホヤされるのを何度も見てきましたが“仕方ないよねー”てな感じで、妬む気持ちもそんなにおこりませんでした。運動能力や学力なんかも、外観と同じ様に生まれ持つた個人の差がある世界です。“人はいろいろだよねー”と思つてました。そして、子どもの頃から周りの大人を見ても、美人が必ずイイ男と幸せになっているかといえぱそうでもないし、外観が幸せに直結するとは思つていませんでした。

さらに、後に大学生になつて海外を旅行すると「美醜の価値観は様々だなあ」としみじみ感じました。美容整形の盛んな国もあれば、ほとんどの女性がノーメイクだったり、

コンタクトレンズではなくメガネ女子が主流の国もあつたりと、逆に日本人の女性に対する価値観はどうなんかなあと考えさせられる事も多いです。

だから、その頃の私は今の自分を上手く愛せない人が、美容整形するのかなあなんて思っていました。

で、精神科医になって 20 数年。たまーにですが、精神科外来に「ウチの娘が美容整形をしたいと言っている、どうしたらいいですか？」と受診される親子ペアを見かけます。たいがいは 10 代半ばの娘と母親のペアです。「この子が整形を許可してくれないなら学校行かないと言ってるんです」「反対すると、怒って怒鳴るんです」と母親の話からは『先生が美容整形を止めて下さい』ってな意図がありありと伝わります。いえいえ、それは私の仕事ではないからねー。ただ、親としての役割は頑張ってはたして欲しいとは思いますが。

まずは、子どもと二人で話します。たいがい、母親への不満は多弁ですが、学校でギクシャクしている様子で、学校での様子や対人関係をきくと言葉は少なくなります。学校や対人関係で上手くいかない事を、外観のせいにしたいのかなあなんて推測は容易です。「美容整形しても、学校での人間関係は大きく変わらないと、先生は思う」「友達関係の問題なら、診察で話し合う事はできる」「自分の稼いだお金で美容整形をするのは自由だと思う。ただ、それを待てないで反対する親のお金を使って美容整形するのは幼い行動過ぎないか」などなどやんわり私の思いを子どもには伝えます。その後、母親を診察室に招き入れて、母娘に対して「現代はほぼ安全な美容手術ですが、100%安全な手術などありません。親がお金を出した手術でトラブルが起こった時、そのことを後悔しない決断を両親で決めるべきと思います」「美容整形するかしないかは、家族で話し合っただけで決める事なので」なんて事を話して診察は終わります。母娘ともに、何となくもやもやした表情で帰ります。

実は金銭的に難しい母子家庭やイジメや長期不登校など本当に精神科治療の必要なシビアな状態の家族は「美容整形」の問題で受診しません。家庭に余裕があつて、母娘と一緒にならんで待合室で座って待てるレベルの母娘は、こんな感じでいいんだと思っています。

近頃の美容外科のサイトをみると、もう未成年は「顧客ターゲット」になっているなあと思います。サイト内にはよくわかるように「未成年は親の同意書と同席が必要」と明記されています。中高生の子どもと母親が美容外科に行き施術した話も、ちらほら聞くようになりました。動画サイトでも美容外科の動画が多くアップされ、美容外科の宣伝も兼ねたけっこうリアルな手術動画から、「こんな美容整形しましたー」的な施術を受けた人のビフォー・アフター動画も簡単に検索できます。美容外科が身近な国に、日本がなつていってるんでしょうね。

そんな動画からは「今の自分をもっと好きになるために、整形しよう」というメッセージを強く感じます。いやー、ほんまにそうなん？と、おばちゃんの私は思ってしまいます。自分の個性を理解し、多様性を受け入れていくのが、自分を好きになる事なのかなあと思うんですけどね。精神的に成熟していく事とは、逆行しているんじゃないかと。

で、ウチの姪っ子。そこそこカワイイんですが、遺伝のおかげで私と同じ「はれぼったい一重」なんです。もちろん、そこが彼女の悩みです。

優秀な皮膚科の後輩が、数年前に美容外科に目覚めて転身しました。ランチをしながら、興味津々にいろいろ聞いてみた事があります。「いやー、いろいろあるけど楽しいですよ」「先生もきれいな二重にできますよ」と笑って話します。器用な彼女にとっては、美容外科は腕の見せ所なんだろうなあと思います。

2022年4月からは18歳から成人になります。姪っ子、美容資金もばっちり貯めたと言います。いやー、どうしたもんだか。